

JCAAW

Japan Commerce Association of Washington, D.C., Inc.
ワシントン日本商工会会報

4月号 2026年 No. 581

目次

- 日本文化紹介イベント「Japan in Bloom」開催報告
在アメリカ日本大使館広報文化班 中村 友子…2
- ワシントンで働く女性の会(J-WIP)
第33回活動報告……………3
- 広告募集のご案内……………5
- やさしいコミュニケーション
「① 人にも自分にも」
Shiori Communications 岡崎 詩織……………6
- ワシントン月報(第218回)「服部自叙伝(7)」
米国特許弁護士 服部 健一……………9
- 今月の書籍紹介「ツタンカーメン王とのディナー」
ポトマック・アソシエーツ 池原 麻里子……………13
- English Rescue by Jennifer
「Language and Culture」……………15
- 編集後記……………17

JCAW Copyright © 2026 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

今月の特集

「日本文化紹介イベント『Japan in Bloom』開催報告」

米国建国250周年を記念し、日本文化交流イベント「Japan in Bloom」がトランプ・ケネディーセンターにて開催されました。在アメリカ日本大使館広報文化班の中村友子さまよりご寄稿いただきました。P.2



「ワシントンで働く女性の会(J-WIP)第33回 活動報告」

第33回のJ-WIPは、元米通商代表部でTPP首席交渉官等を務めたバーバラ・ワイゼル氏に、米通商政策の変化と日本・ミドルパワーへの影響をご講演いただきました。P.3～

新連載

「やさしいコミュニケーション」

今月より、ポットキャストなどでもご活躍のShiori Communications代表・岡崎さまの連載スタートです。多文化経験を背景に、真摯さと率直さで信頼を築く「やさしい」伝え方を、米国流の明快さと日本の気配りを軸にご紹介いただきます。P.6～

日本文化紹介イベント「Japan in Bloom」開催報告

在アメリカ日本大使館広報文化班
一等書記官/文化担当官 中村 友子

本2026年は米国建国250周年の節目の年にあたります。日米の絆をさらに深め、「生きた友情の証」である桜の木250本の寄贈を契機に、次世代にインスピレーションを与えるというミッションのもと、当館では文化芸術交流や教育交流事業の強化に取り組んでまいりました。

その一環として、桜の季節の到来と米国建国250周年を祝い、3月17日から19日の3日間、トランプ・ケネディーセンターにて「Japan in Bloom」と題した日本文化紹介イベントを開催いたしました。18日には、貴商工会の皆様のご多大なるご支援をいただき、企業紹介ブースや観光広報、生け花体験等からなる「Mini Japan Expo」と、同センターのテラスシアターで行われた現代舞踊家・梅田宏明氏の公演のプレショーイベントとして、山田大使主催のレセプションを企画いたしました。

伊藤忠商事様、米国三菱重工業様、米国三菱商事様、Crunchyroll / SONY様、JR東海様、全日本空輸様、日立製作所様にご出展いただいた「Mini Japan Expo」は、約500名の来場者で大盛況となり、最高裁判事から幼児まで、幅広い方々に日本の魅力をお伝えすることができました。



なお、日本と同センターには特別な結びつきがありません。オペラハウスの壮麗な赤と金色の緞帳は、1971年の開館にあたり、京都・西陣で特別に織られ、日本から贈られたものです。さらに1975年には、翌年の米国建国200周年を祝して、日本国民から米国民への贈り物として、テラスシアター建設のための資金協力も行われました。

本資金協力を表明するにあたって、当時の三木武夫総理は次のように述べています。

「このような日本からの友情のしるしは、今後幾世代にもわたり、米国民の心の中に、太平洋を挟んだ永遠の友である日本国民の米国民に対する尊厳と親愛の念を想起させることを期待するものであります。」

三木総理の願いのとおり、同センターは50年以上にわたり、日本文化を米国民に紹介し、また米国文化を私たちに伝えることで、両国の人々の間に共感と経験の橋を架けてきました。日米の友情の証である贈り物を大切にしてきてくれた同センターにおいて、建国250周年を祝うイベントを開催できましたこと、改めて貴商工会の皆様のご協力に深く感謝申し上げますとともに、次の50年も、

日米両国の間に文化・芸術を通して共通の感情が育まれていくことを祈っております。

ワシントンで働く女性の会 (J-WIP) 第33回 活動報告

企画担当理事



2026年3月30日、ワシントンDCで働く女性を応援する J-WIP(※) の第33回スピーカーイベント「The Trump Administration Shifts the Global Trading System: Implications for Japan and ‘Middle Powers’」(トランプ政権がもたらすグローバル貿易システムの転換: 日本および『ミドルパワー』への影響)を開催いたしました。

当日は、米通商代表部(USTR)で長年、環太平洋パートナーシップ協定(TPP)の首席交渉官など多国間貿易協定の交渉をリードし、またアジア太平洋地域の二国間交渉等も務められたバーバラ・ワイゼル氏を講師として迎えました。USTRでのご経験を踏まえ、今後の国際貿易システムの見通しや、国際貿易における日本およびミドルパワーの国々の役割等、幅広い話題についてお話を伺いました。

会場には男女問わず約30名の商工会会員・非会員が参加し、ワイゼル氏と活発な意見交換を行いました。

ワイゼル氏は、25年以上にわたって国際交渉に携わり、USTRでTPPの米国首席交渉官の他、東南アジア・太平洋担当通商代表補等を務められました。またUSTR在任中に、オーストラリア、シンガポール、マレーシアおよびタイとの二国間FTA交渉を主導したほか、日本部長も歴任されました。USTR入局以前の1984年から1994年にかけては、国務省で日本や中東地域を担当する国際エコノミストを務められました。同氏はコネチカット・カレッジを卒業後、ハーバード大学で2つの修士号を取得されています。



本イベントではまず、ワイゼル氏のキャリアの歩みや、USTRの組織文化等について紹介されました。子育てと厳しい交渉業務を両立させるための秘訣や、交渉において臨むべき姿勢などについても示唆を頂きました。

続いて、通商政策の話題に移り、トランプ政権による通商法第301条の活用と、それに対する議会の動向について解説いただきました。また、直近の論文『How Middle Powers Are Responding to Trump’s Tariff Shifts』でも指摘されているように、「ミドルパワー」と呼ばれる国々が直面する課題や、CPTPPとEUの連携、統合の可能性、課題について言及されました。加えて今後の世界貿易機関(WTO)の行方や、ルールベースの国際通商システムに日本が果たす役割についても、深い見識が共有されました。

今回のイベントは、不確実性を増すグローバル貿易システムにおける米国の動向を理解するだけでなく、安定した国際貿易の維持に向けて日本やミドルパワーの国々が果たすべき役割を再確認する非常に有意義な機会となりました。

(注) 当イベントは原則オフレコでしたが、講師の了承を得た情報を盛り込んでいます。

※ J-WIP(Japanese Women in the Professions in Washington DC): ワシントン地区で働く日本女性へのキャリア育成支援活動。2016年1月から、ワシントン日本商工会として支援



**YAMATO
TRANSPORT
U.S.A.**

**INTERNATIONAL
MOVING SERVICE**



<p>お荷物の多い方! 時間のない方! 面倒なお引越は全てまかせて ら〜くら!</p> <div style="text-align: center;">  <p>安心</p> <p>引越 海外パック</p> </div>	<p>箱に入らない家具や 自転車なども送りたい、だけど安く 済ませたい! そんな方へ</p> <div style="text-align: center;">  <p>丁度 いい</p> <p>ベーシックプラン</p> </div>
<p>定形の箱に入るお荷物だけ ご自身で梱包をして節約! すぐに必要ではない お荷物は船便で割安に</p> <div style="text-align: center;">  <p>節約</p> <p>単身プランSea</p> </div>	<p>定形の箱に入るお荷物だけ ご自身で梱包をされる方 必要な荷物を 最短の所要日数でお届け</p> <div style="text-align: center;">  <p>早い</p> <p>単身プランAir</p> </div>

各サービスの詳細はウェブサイトにてご覧いただけます!

www.yamatoamerica.com/cs/



フリーダイヤル 5 4 5 6 5 8
1-866-5-KIKOKU

日本以外の世界中へのお引越・米国内のお引越も!

米国ヤマト運輸 ワシントンDC支店
22930 Quicksilver Drive, Unit 115
Dulles VA, 20166
Phone: (703) 661-3501
Email: wasoperat@yamatoamerica.com

登録情報の ご確認、更新をお忘れなく



法人会員、個人会員ともにご登録情報（会員名、電話番号、メールアドレスなど）にご変更がある場合は、お気軽に事務局までメール（office@jcaw.org）にてご連絡ください。

会報やその他の情報がタイムリーにお手元に届きますよう、登録情報の更新にご協力ください!



Japan Commerce Association of Washington, D.C., Inc.

広告募集のご案内

JCAW会報に広告を掲載しませんか？



広告のイメージ図

JCAWは、ワシントンDCにおける日本人コミュニティの重要な情報発信元であり、商工会議所として地域社会において重要な役割を果たしています。

そんなJCAWの会報を通じて、貴社の広告や宣伝を効果的に発信しませんか？

会報の広告にはリンクを設定でき、クリック一つで貴社のウェブサイトやEメールアドレスにアクセス可能です。さらに、年間契約でお得なプランもご用意しております。

詳細は、ぜひJCAW事務局までお問い合わせください。

料金体系（2026年1月からのレート）

広告掲載先	サイズ	商工会会員		非会員	
		月料金	年料金	月料金	年料金
会報※	1/4ページ	\$65	\$600	\$100	\$860
	1/2ページ	\$130	\$1,200	\$165	\$1,470
	1ページ	\$260	\$2,400	\$320	\$2,880

※ 会報広告 原稿制作費は当広告掲載料金に含まれません。原稿は広告主様にて手配願います。1年（1月～12月）契約で1回割り引きとなります。（会報は年10回発行）

お問い合わせ先

Japan Commerce Association of Washington, D.C., Inc.
 1819 L Street N.W., Suite 410, Washington, D.C. 20036
 TEL: 202-463-3947 FAX: 202-463-3948
 Email: office@jcaaw.org URL: www.jcaaw.org

新連載 やさしいコミュニケーション 「① 人にも自分にも」

Shiori Communications 岡崎 詩織

今月から新たに連載を担当させていただく岡崎詩織です。本連載では、広報や通訳といった現場を見てきた経験から、米国におけるコミュニケーションのあり方や、そこにどのように相手への気遣いを盛り込んでいけるかを取り上げます。様々な組織やビジネスのリーダーとしてワシントンで活躍され、英語を駆使してお仕事をされている皆様のお役に立てれば幸いです。

初回の今回は、自己紹介も兼ねて、なぜ私がコミュニケーションを重視しているかについてお話しします。

人生の最初の9年間をホノルルで過ごした私は、恵まれた環境でのびのびと育ちました。ハワイは、人口の半分がアジア系で、地理的にも文化的にもアジアとアメリカの間にあります。私の友達は複数の国に祖先をもつ人ばかりで、それぞれの文化や自宅での習慣を語り合い、共有するのが当たり前でした。



そんな中、駐在員だった父が日本の本社に呼び戻され、家族で東京に引っ越すことになりました。公立の小学校に転入した私は、友達作りに苦労しました。最初こそ珍しがられたものの、そのうち無視されるようになり、先生にも疎まれるように。皆の態度が変わった理由が分からないまま通い続けましたが、卒業間際に、それでも付き合ってくれた友人が、「自慢するから人が離れていった」と教えてくれました。自分たちで掃除や給食の配膳をすること含め、日本の学校で目にする様々な真新しいことに対し、「アメリカでは」「ハワイでは」と比較したり、皆が静かに聞いている授業中に何度も手を挙げたりしたことが嫌がられたようです。

今振り返れば、どう受け取られるかを全く考えていなかった、嫌われて当然の言動でした。その後少しずつ友人ができましたが、私は日本の小学校でのことを恥ずかしく思い、長らく隠していました。20代半ばになって、どんな逆境にあっても臆せず欲しいものを追求する友人に出会いました。彼女は、自分が過去にいじめられたことをオープンに話していました。こんなに輝いている人でさえそんな目にあったのか、と驚くとともに、それをよいエネルギーに転換して次世代の人たちを勇気づけている彼女に大いに刺激を受けました。人間関係が不得意な私にも、孤独感や寂しさが人一倍分かるという強みがあり、それを未来に向けて活用できると気づいた瞬間でした。

どの言語であれ、真摯な態度は伝わります。率直に考えを伝えた方が心が通いますし、深い話をしてもよい場合は、全体的な人生観や立場も明らかになり、信頼を得やすと考えます。私が過去

の話をする、多くの人たちがそれに応え、自分のことを語ってくれます。私にとっても、人に話すことで傷が癒えてきましたし、試行錯誤を繰り返してもがいてきた人生も、人に語るときにはそれなりのナラティブにまとまり、悪くないと思えてきます。

本連載では、米国におけるコミュニケーションに焦点を置き、ローコンテクストで分かりやすい表現の仕方を取り上げます。同時に、日本の良さの一つでもある気配り、そして共感を得られるような形で自分らしさをどう反映できるかについて話します。人にも自分にも優しく、易しい。真摯に、率直に、なるべくオープンに。そのようなコミュニケーションの仕方を目指して、連載をしていきたいと考えています。

来月からは具体例も交えて、コミュニケーションの様々な側面を見ていきます。どうぞよろしくお願ひします。



岡崎 詩織プロフィール:



シアトルで生まれ、ホノルルと東京で育つ。Shiori Communications, LLCの代表として、ワシントンDCを中心に、通訳、執筆活動などを展開。日米をつなぐ言葉の仕事に情熱を注いできた。過去には米日カウンシルや在米・在英日本大使館の広報チームで勤務。通訳者としては、日米各地でハイレベルの会議、人的交流プログラムなどを担当。ダートマス大学で学士号、コロンビア大学の国際公共政策大学院とジャーナリズム大学院で修士号を取得。TBSワシントン支局のポッドキャスト「週刊ワシントン」の準レギュラー。ブログ「tabula sarasara」、ポッドキャスト「CrossWorld Puzzles」更新中。

皆様に支えられ、 インテレッセは創業30周年。

Washington, DCを拠点に、日英バイリンガル人材採用と人事クラウドサービスを支援しています。



提供サービス

■ 人事管理クラウドサービス (iiiHR事業)

30年の派遣管理経験から生まれた、人事管理を効率化するクラウドサービス。

主なメリット

- ・人事アドミ: 時間と手間を軽減
- ・法令遵守: 基礎的な条項を網羅
- ・クラウドサービス: 利便性を向上
- ・格安なサービス料金: \$480/月~

30日間

無料トライアル実施中!

Email: iiiHR@iicareer.com
Website: www.iiiHR.com

■ 人材紹介・派遣サービス (iicareer事業)

DC地域の特性と企業ニーズを理解したきめ細やかなマッチング。

■ 調査業務・各種コンサルティング

市場調査、組織課題の可視化、人事制度改善支援など。

■ 地域情報誌「さくら新聞」発行 (iii-Media事業)

DC地域のコミュニティと企業をつなぐ情報発信。



採用・人事・ビジネスに関するご相談は、どうぞお気軽にお問い合わせください。

interesse international inc.

Email: dc@iicareer.com Tel: 571-384-7117

1717 K Street NW Suite 900, Washington, DC 20006

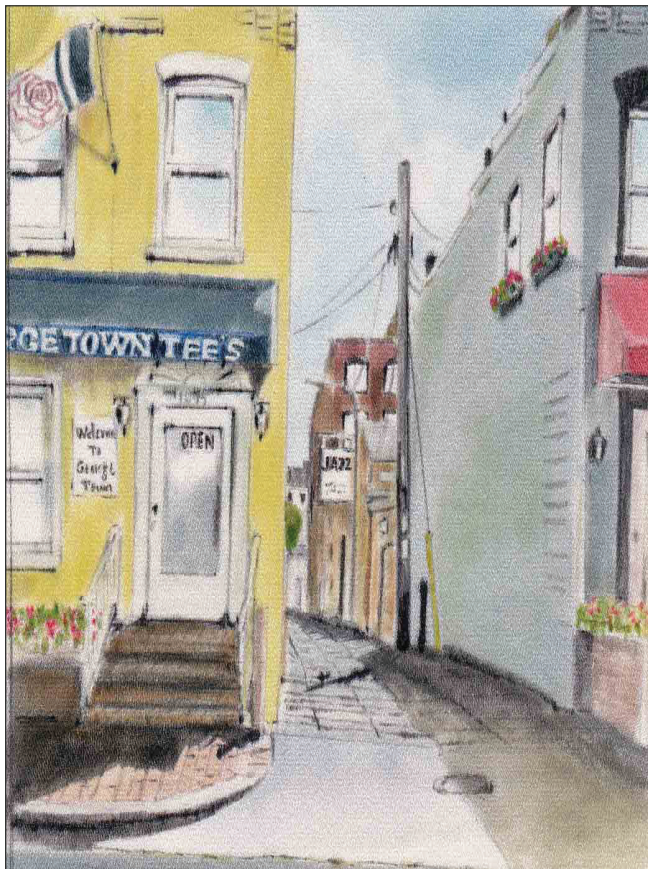


Illustration by Emi Kikuchi

米国日本通運株式会社は2022年1月より、社名をNXアメリカ株式会社へ変更致しました。



帰国の際の引越はNXアメリカにお任せください

お問い合わせ、お申込みはNXアメリカワシントン営業所まで

TEL: (703)-661-8326 (日本語ダイヤル)

URL: <https://www.nipponexpress.com/moving/us/>



そして、今、特許庁を辞めて日本特許事務所で弁理士をすれば給料は1,000万円位(約4万ドル)かな?...。それからアメリカの事務所に行って直ぐにクビになったら格好が付かないので最低3年は働きたい、3年働けばアメリカ弁護士への道も開けるのではないかと考えてこれらの2つの条件を言う。するとニノミヤ弁護士は、分った、俺はそれで良いが、他のパートナーとも相談しなければならないのでちょっと待ってくれと言う。そして2週間位すると、条件はOKだが、筆頭パートナーのアダムズ弁護士(仮名:故人)が東京へ行くので彼が君をインタビューしてから最終決定を出したい、と言う。そして実際2週間位してアダムズ弁護士が日本出張に来て私を約1時間インタビューしてOK!と言ったのである。そして給与4万ドル(約1,000万円)、就職期間3年が保証される事になった。

この給与4万ドルに対して私はどのような働きをしなければならないかについてアダムズ弁護士に聞くと、アソシエイト弁護士/弁理士は原則として給与の3倍の売り上げがなければならないが、ケン(日米特許大使のような特別の資格だから直ぐには適用されないからそう心配するな、と言う。そうか、しかし心配するな、とは言われても働いている内にいずれにせよその問題は生じるだろうから何かを考えなければならないな、と肝に命じておいていた。それよりも、就職期間3年の問題はANMK事務所が決定出来る問題ではなく、アメリカ移民局がビザを3年まで延長出来るかを決定する問題である事はアメリカに行ってから知らされ、何とかしなければならぬな、と考え始めたのであった。

10.2 日刊工業新聞の報道

その後で私は辞表を提出する準備をしていたが、その時通産省の廊下で偶然に大臣官房企画室時代に良く交流していた日刊工業新聞の記者とすれ違った。

あれ、服部さん...じゃないですか? 最近、特許で何かニュースはありますか? と聞くので、そうねえ、特別なニュースではないですがまあ、私が特許庁を退職して、米国特許法律事務所に着職する位かな...、と答えると彼は、へー、いやーそれはすごい、それ、我が社の新聞記事に書いてもいいですか? と聞くので、ええ、私が特許庁を退職した後ならいつでも記事にしていいいですよ、と答える。

こうして日刊工業新聞は私の退職記事を掲載したのである。

**摩擦解消に
役立つなら**


服部さん、特許庁辞して、米の法律事務所へ

日米特許競争を解消する。懸け綱として、迎頭省をこのほじろビン・アウトした一人の元役人が渡米する。その人は足かけ十七年間、特許庁に籍を置いた服部健一さん。あと三年いれば恩給がつく

し、三十九歳という若いとはいえない年を考えると、何も無理しなくても!と思われのだが「目米摩擦の解消に私のような者でも役立つことがあれば」(服部氏)と気概を燃やしている。

特許庁在職中の審査、審判や、かつての米国留学の経験を生かしワシントンにある米国特許法律事務所へ飛び込んでいく。

世界の特許出願件数は年間百万件を超える。米国十万件、日本四十万件といわれる中で、その処理と紛争解決は大変な仕事。



服部さん

「単なる特許問題だけに限らず先端技術や日米の物の考え方の幅広い首を突っ込んでいきたい」と目を輝かす。渡米は来年一月ごろになりそう。

この話を事前に聞いた若杉和夫特許庁長官は、身を捨て米国に飛び込んでいく服部さんの勇気をたたえた。SBCのチャレンジャー精神(若)に感銘を受けた。若者に華あれ!

(1983年9月9日 通産省退職 日刊工業新聞)

これは結構センセーショナルな記事となり、そのお陰もあってか数年後私が米国特許弁護士になった時には別の新聞記者達がそれらを記事にしてくれたのである。全ては大臣官房企画室時代に各新聞社の記者達と交流を深めていたためとも言える。ビジネスとはそういうもので、1つの事が後にいつ、どこで、どのように開花するか分からないという例であるとも言える。

10.3 父と弁理士業務

アメリカで働くためにはH-1ビザが必要であるが、私がアメリカ企業にとって重要であるという実績は米国の巨大鉄鋼メーカーのU社を含めて十分あったので移民局は約半年位で就労ビザを発行してくれた。その間米国へ移住する準備を進めると共に、父と弁理士業務を行い、日本特許弁理士業務を勉強しておく事にした。父は私がアメリカに行く前に、私に弁理士としての日本特許プラクティスの根本を教えたがっていたようであった。やはり心配なのであろう。

ある日本企業の出願で対応が非常に難しいケースがあった。我々は、どのように対応すべきか二人で書類を見ながら唸っていた。その時、私はふっと1つの解決案を思いついた。それは必ずしも正攻法手段とは言い難い、若干姑息的手段ではあった。従って厳格で実直な父にはちょっと言い難く、言うべきか否か迷っていた。言え、父から、バカ野郎、特許を取れば良いというものではないぞ！とどやされる可能性があったからだ。しかし、取れないよりはましなので私はおずおずとそれを提案し、後は恐る恐る父の反応を待っていた。

すると父は、はっとした顔でその姑息的手段を記載した書面をじっと見ていたが、やがてすっと立ち上がり両手を腰につけて直立不動となり、深々と頭を下げて、恐れ入りました、それは素晴らしい解決手段です、と言ったではないか！驚いたのはこの私の方である。怒鳴られるどころか激賞されたのである。私の人生で初めて父に褒められたと言っても良かった。この頃はアメリカ行きの準備であまりに忙しく、父の変貌というものをあまり見えていなかったが、今から考えると通産省の大臣官房企画室での働き振りからも父は私の人生や人生観というものを少しずつ理解し、認め始めて来ていたのかもしれない、と考える今日この頃である。

11. 米国における特許活動

11.1 ヘンリー幸田氏(故人)とルービッツ弁護士とのランチ

私の働くH-1ビザが発行されると1984年2月に40歳になる2ヵ月前にアメリカへ行くために1983年の12月末にロスアンゼルス空港へ飛んだ。その頃はまだ、成田—ワシントンDCの直行便がなかったからだ。そしてロスアンゼルスで働いているヘンリー幸田氏と上司のルービッツ弁護士と落ち合ってランチを食べた。幸田氏は特許庁でアメリカ特許制度について講演をしており、アメリカに来るならロスで食事でもしよう、と話していたからだ。

ルービッツ弁護士は幸田氏の米国特許訴訟の記事で日本でも有名になっていたのも幸田氏を非常に大切にしている事が良く理解出来た。そして、ルービッツ弁護士は私の顔を見るなり、私は君のお父さんを知っているよ、お父さんの鑑定の英訳を読んだ事があるんだ、と言うではないか！父は研修所長退職後、著名な学者的弁理士として10数社の顧問をしていたのでその内の1つの鑑定を読んだのであろう。

そして、ルービッツ弁護士は特許訴訟のほとんどはカリフォルニア州であるので、ワシントンDCへ行かないでロスにある我々の事務所で働かないか、と言っていた。私は、ビザはワシントンDCのANMK事務所発行だからワシントンDCへ行かなければならないけど、もしそこでクビになったらロスに来るからその時はよろしく、とジョークを言って躲(かわ)しておいた。ともあれ、ルービッツ弁護士は幸田弁護士を非常に重用しているようで、私もワシントンDCのANMK事務所の弁護士達からそういう扱いを受けられるように頑張らなければならないな、と考えさせられたものだった。

(続く。「自叙伝」原本は日本弁理士会パテント誌2025年7月号に掲載)



Illustration by Emi Kikuchi

今月の書籍紹介

新しい事に挑戦してみたい方がいらしたら

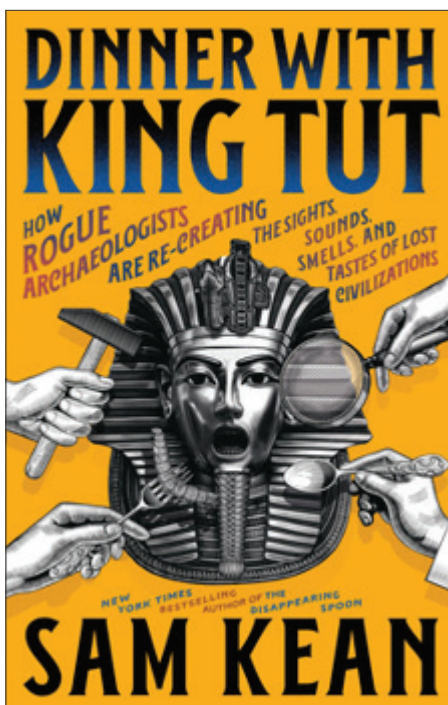
古代人の知恵を学ぶのも興味深い事かも

でもちょっと勇気が必要です

「ツタンカーメン王とのディナー」

サム・キーン

ポトマック・アソシエーツ 池原 麻里子



「ツタンカーメン王とのディナー」
サム・キーン(アシェット)

本書の副題は「はみ出し考古学者たちがどのように失われた文明の光景、音、匂い、味を再現しているか」。著者は数冊のNYタイムズ・ベストセラーを執筆した科学ライターで、本書は古い文化のしきたりを自ら実体験した事の記録だ。

考古学者といつこつと遺跡を発掘、調査するというイメージが強いが、著者は研究者や伝統継承者たちを訪れ、エジプトのミイラ作成や、アステカ人の球技を体験することで、彼らの文明に触れ、現代人が失った古代人の知恵、文化を回顧している。

著者が再現を体験したのは7500年前のアフリカ、紀元前7500年の南米、紀元前6500年のトルコ、紀元前2000年代のエジプト、紀元前1000年代のポリネシア、100年代のローマ、500年代のカリフォルニア、900年代のバイキングが活躍していた欧州、1000年代のアラスカ、1200年代の中国、1500年代のメキシコ文明の一面だ。

古代アフリカ人にとってダチョウの卵は貴重な栄養源で、殻は水筒として利用。著者はダチョウの卵を入手し、古代人同様に燧石の刃で卵に穴を作ることを試みる。分厚い殻を貫通するのは大変で、この殻を破り誕生するダチョウのヒナの生命力に感嘆する。

ペルーではジャガイモに液体状の粘土をつけて食べる伝統的な方法を体験。これでジャガイモの毒が融和されるのだ。

ミイラ作りの習慣は幾つかの文明にあるが、何と云っても有名なのはエジプト。1994年、米国の解剖学者とエジプト研究者が人体でミイラを作った。古代エジプトの道具を再現し、鼻孔から脳みそを掻き出し、腹部を3.5インチ切開し臓器を摘出。エジプトから持ち帰った天然の重曹で人体を脱水すると、188ポンドの身体は79ポンドになった。別途、脱水した臓器も縮まり、カノーペの壺口が小さくても、臓器収納は容易だったことが判明。人体を古代エジプト人同様に水連、杉、ヤシ油でマッサ

一ジし、しなやかにし、麻製の包帯で包んだ。3カ月後、51ポンドの軽さに。本ミイラは現在でも金属製の棺に室温で保管されている。著者は彼らを訪問後、動物のミイラ作成専門家を訪れ、自ら鯛のミイラを作成し、それは現在でも健在だ。

エキゾチックな食事を楽しんでいるロンドンのクラブ(1952年設立)を筆者は訪問。その晩、料理歴史家が古代ローマの食事を再現していたからだ。古代ローマ料理は酸味、塩味、甘味、苦みのバランスを取り、特にガルムという魚醤を、デザートを含むすべての料理に使っていた。その晩のフルコースのデザートはワインで煮た桃とプラムのマスカポーネ添えだったが、もちろん魚醤は不可欠。

中世のアイランドでは、治療に玉ねぎとニンニクと牛胆汁を入れたワインが使われていた。たまたま爪が割れ、指が化膿していた著者は、自ら作ったこのワイン特効薬に指をつけると化膿は消滅。根管治療後もこれでうがいをしたところ、見事に化膿を防げた。研究者が生物内で繁殖するバクテリアで実験すると、現代の抗生物質よりもバクテリア殺菌に有効だった。

人類は1万年前から闘い等の頭部打撃の治療としてトレパネーション(穿頭術)を行っていた。これはフランス、ニューギニー、ペルー、ケニアなど世界中で行われており、その痕跡がある頭蓋骨が発見されている。著者はメイン州を訪問して、鹿の頭に穿頭術を施してみた。皮を剥ぐところまでは良かったが、肉はすべり、頭蓋骨にたどり着くまで四苦八苦。翌日は豚の頭で挑戦した。そして自ら穿頭術を施した人たちも訪問して、どんな効果があるのかをヒアリング。

アラスカではイヌイット族を訪問し、「北極サラダ」(野草、鯨肉とアザラシの内臓、ニシンの卵)をごちそうになる。アザラシの内臓はイカのように固くてホットドッグの味、ニシンの卵はカリフラワーの味がしたという。彼らからアザラシの油の採集方法を教わり、皮袋の作り方を見学する。アザラシは口を割いて頭蓋骨を除去し、皮を裏返して内臓を除去。次に口をしっかりと閉じ、肛門から皮をタイヤ・ポンプでふくらませ、皮下脂肪を取り除いた後、皮をひっくり返して元通りに。その中で保存した肉は、特に零点下の天候で地下に埋めれば何年も貯蔵可能だ。

メキシコではアステカ人の球技を体験。ゴムボールは11-15ポンドで、腰で打ち合うが、肉体的に過酷で、アステカ人のタフさを思い知る。

新年、新しい事に挑戦してみたい方がいらしたら、古代人の知恵を学ぶのも興味深い事かもしれない。

(NEW LEADER 2026年1月号より転載)

English Rescue by Jennifer: 「Language and Culture」

ジェニファー・スワンソン

Hot Topics – America’s 250th Anniversary and National Parks

The **250th anniversary of the United States in 2026** offers an opportunity to reflect on the nation’s history, ideals, and shared heritage. The **National Park Service** plays an important role in preserving the landscapes, historic sites, and monuments connected to America’s founding and development—from Revolutionary War battlefields to civil rights landmarks. During this anniversary year, national parks provide meaningful places for Americans and international visitors alike to learn about the country’s past while recognizing the importance of protecting these sites for future generations.

In this series, we are highlighting national parks that commemorate important chapters of American history. Initially we explored **Yellowstone National Park** and its significance in the creation of the national park system, then **Independence National Historical Park**, where key events in the nation’s founding took place and last month, Great Smoky Mountains National Park, home of the Cherokee people and Appalachian Mountains and culture.

Saguaro National Park: A Symbol of American Identity

Japanese people often mention Sedona, Arizona as a “power spot.” Sedona is called a power spot because many people believe it has special energy centers known as vortex sites. Its stunning red rock landscapes and peaceful environment also make visitors feel calm, inspired, and spiritually connected. Another place that captures this feeling of calm is **Saguaro National Park**. Although it is not considered a “power spot,” it is a landscape that reflects not just natural beauty, but an important part of American identity. (And it is only a 3-4 hour drive from Sedona!)

At the heart of the park stands the iconic **saguaro cactus**, a plant found only in the Sonoran Desert. These giant cacti, some over 150 years old, represent resilience and endurance—qualities that are often associated with the American spirit. Surviving extreme heat, drought, and time itself, they mirror the perseverance that has shaped the nation’s history.



(Public domain)

Saguaro National Park also highlights the deep connection between Americans and the land. From Indigenous peoples who have lived in the region for thousands of years to modern visitors seeking adventure, the park tells a story of cultural heritage and respect for nature. It reminds us that American identity is not just about cities and technology, but also about vast landscapes and the people who have adapted to them.

The **saguaro cactus** is very important to the **Tohono O’odham people**. They harvest the saguaro fruit to make food like syrup and jam, and it is also used in traditional ceremonies, especially those related to rain. The cactus is seen as a sacred part of desert life and represents survival, respect for nature, and cultural tradition. The Tohono O’odham people today have about 28,000 to 34,000 enrolled members.



(visitarizona.com)

In addition, the park represents the value Americans place on conservation. As part of the National Park system, it reflects a national commitment to preserving natural spaces for future generations. Protecting places like Saguaro ensures that the beauty and history of the land remain accessible to all.

In a fast-changing world, Saguaro National Park stands as a powerful symbol—of endurance, heritage, and the enduring bond between people and nature. It reminds us that American identity is rooted not only in history and culture, but also in the landscapes that continue to inspire us.

- <https://visitsedona.com/spiritual-wellness/what-is-a-vortex/>
- <https://www.usgs.gov/geology-and-ecology-of-national-parks/ecology-saguaro-national-park>
- <https://www.nps.gov/articles/oodham.htm>



～Jennifer Swanson プロフィール～

日本にて7年在住中に、高校英語教師の経歴を持ち、日本企業でも働いた経験を生かし、現在は米国大学講師、日米協会講師、在米日本人に英語レッスンの他、米国人に日本語も教える。日米でのさまざまな経験を基に、“頻出テーマで はじめてのTOEFLテスト 完全攻略”(高橋書店: Jennifer Swanson/四軒家 忍 (著))を出版、多方面から楽しい英語レッスンを展開しています。

jenniferswanson.org



4月編集後記

気づけばもう4月。DCの街はすっかり春らしくなりました。今年の桜祭りも多くの人で賑わい、日本文化への関心の高さを改めて感じる週末でした。

また、先日はナショナルズの開幕戦でドジャーズがDC入りし三連戦を繰り広げました。観戦された方も多いかと思えます。大谷選手や佐々木投手の活躍を目の当たりにし、世界を舞台に活躍する彼らに、改めて尊敬の念を感じました。今シーズンも益々頑張ってもらいたいですね。

一方で、中東ではイランをめぐる緊張が続き、先の見えない状況に不安を抱く方も多いと思えます。少しでも早く情勢が落ち着き、人々の暮らしが守られる方向に進むことを願っています。

日本では新年度が始まり、4月にDCへ着任された方もいらっしゃると思います。新生活の準備で忙しい時期ですが、落ち着いたらぜひ商工会のイベントにも気軽に参加してみてください。ここでのつながりが、皆さんの生活を少しでも支えるものになれば嬉しいです。

芦澤・岡本

会報に関するお問い合わせにつきましては、[JCAW事務局](#)までご連絡ください。
